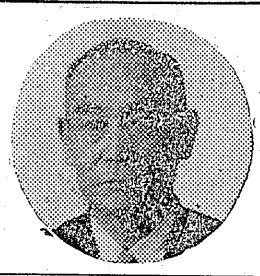
夕刊 常磐毎日

発行所 平市田町75 常磐毎日新聞社 電話1210番
印刷兼発行人 吉田甫
編集 発行

立消えた八月運転実施

何處へ行ったガソリンカー線を間違えたか委員長

選挙用の関内放言



「泉ー久ノ浜間ガソリンカーは八月末日運行確定」と大見栄を切つて去月中旬、平市内九ケ所で〝国会報告座談会〟を開催した運輸委員長関内正一代議士の議会報告演説要旨は、七月二十六日付の御用新聞「いわき民報」にデカデカと報導され沿線民から「それが本当なら大したもんだ、やっぱり運輸委員長だわい」と大きな期待と波紋を呼んだが、八月も今日を最後に明日から九月と月替りとなつて了ふため、▼関内の言つたことは本当か？▼現在ガソリンカー問題の実情はどうなつているか▼選挙民を迷わす放言ではないのか？等々実情を調査して正しい報導をしてくれ、と各方面から投書や問合せが山積しているので、通信網を動員して調査した結果、実状は、水戸管理局は勿論、国鉄総裁も未だ具体案はない」と回答従つて大宮車輛工場では製作にも。（写真は放言居士関内委員長）

ウマ過ぎた芝居
沿線民らは大いに憤慨

ガソリンカー問題は、予ねて石城町村長会が中心となつて、関内委員長並びに政府要路筋に陳情して来たが国鉄本省としては未だ計画にも組込まれておらず、いわば上層部だけの話題程度で足ぶみしており、本年度の国鉄計画は茨城県下館ー真岡間など十六ケ所で泉ー平ー久ノ浜間は勿論含まれておらず、百三十輛製作の予定を緊縮予算の関係上百輛に減らされておる現状で、来年度の計画にすら割込めるかどうか見通しがつかない現況である、

仮りに泉ー久ノ浜間を二輛一組としても三組を要し予備車一輛を加えて最底七輛は必要でありこの七億四千二百万円（一輛六百万円）もかかる更に乗務員の養成期間には最底二十日は必要とあるから、見通しとしては当分見当がつかないというのが現況であり、関内委員長の八月運行確定説は全くのヌカ喜びの選挙用放言と言わざるを得ないわけで仮令政治力を以て本年度計画に割込んだとしても、本年度中の実現は不可能に近いと国鉄側は弁明しており、沿線民をグロウするも甚だしいと、非難を買つているものである。

関係者は語る

▽平市議会金古議長談「ガソリンカーの問題は、一寸見通しがつかないんぢやないか？八月運行なんてとんでもない、関内氏が帰平している筈だから本人に聞いてみ給え」というので関内氏宅に連絡したら上京中で留守であつた、▽平市田町某氏曰く「八月運行確定だなんてそれは関内放言だ、緊縮予算で計画から削られたというなら若干のひつかかりはあるが、始めから本年度計画に入つていないものを、運輸委員長ともある立場のものが、八月から運行確定だなんて言い切るのは、放言も甚だしい、最も昨今は吉田首相始め放言ばやりだから本人も平気で言い放つているのかも知れないが、われわれは甚だ迷惑だ、もつと言辞を慎んでもらいたい」

取りかかつていない現状と判明、〝八月運行確定〟の関内委員長の大見栄は、単なるヌカ喜びで選挙用関内放言だと、沿線郡民らが憤慨、大きな非難の的となつている従つて大宮車輛工場では製作にも。（写真は放言居士関内委員長）

見通しつかない

國鉄總裁も実施否定

右に就いて国鉄水戸管理局運輸長は語る。「八月から気動車が走るということは新聞で見ているが水戸管理局としては何んの話も受けていない、局としては一日も早く実現して利用者のサービスに努めたい程同ているが、緊縮予算でどうにもならないのが現状のようだ、水局としては下館ー真岡間の敷設などに廿日以上を費すことも考えねばならない、結論は何時になるか前途の見通しはつかないが、実現不可能ではない七月末日国鉄総裁が水戸に来たとき、平駅長がこの問題について質問したところ、具体案はないという返事だつた。また、七月に関内氏が四倉町役場と四倉駅長に書面で何か言つて来たような話も聞いているがその内容はわからない、何れにしても国鉄では本年度計画には入つていない」

次に平方部を考えているが、下館側は実現したが平方部は本省から何人の通知も受けていない、従つて八月運行どころか本年度中の運行は不可能に近い、聞くところでは運輸委員会で国鉄の幹部をとりあつかつているそうだが、その後の進展はみられないようだ。

それに事が配置されても乗務員

財産区議会

常磐市財産区議会は三十一日午前九時から市役所会議室で開会、上浅谷地内の立木千八百石の入札、財産区議職員の旅費支給条例設定の件などを審議する。

優良納税者と組合表彰

常磐市では三十一日吉田寅雄氏外百五十名の市納完納者を表彰するなお九月一日には優良納税組合として笠井（組合長古山可光民）外三十三組合を表彰、更に六日から三日間納税組合に対し奨励金を交附する。

図書部会

常磐市少年図書部では九月五日午後四時から総会を開き、役員改選及九月行事、事業方針（文集発刊、ハイキング）などについて協議する。

増子巡査殉職

二十九日午后九時四十分ごろ植田署錦巡査部長派出所勤務増子栄次郎巡査（三四）は自転車窃盗事件捜査のため植町江栗駐在所で打合せ中脳溢血で倒れ、三十日朝遂に死亡した、植田署では殉職として警察葬を県本部に上申した。

国語講習会

郡下小中校長会主催の国語講習会は二十四日午后一時から内郷市浅野記念館に郡下小中校教員六百名が集つて開催される、講師は国語教科書編集課長菅野事務官、吉田瑞穂事務官となつている。

柔道は小林

内郷署では十六日から二十八日まで全署員の柔剣道土甫稽古を実施

受胎調節講演會

十六日平市公会堂で開催

日本公衆衛生協会県支部では九月十三日から十八日までの六日間、浜下各地で受胎調節普及講演会を開催する、平地区は十六日午後六時から平市公会堂と十七日午後一時から好間村の古河炭砿会館の二会場で開き、受胎調節についての一般論の講演後、婦人代表らとの討論、また希望者に対しては別室で実地指導も行う。

講師はラジオドクターの石垣純二氏。

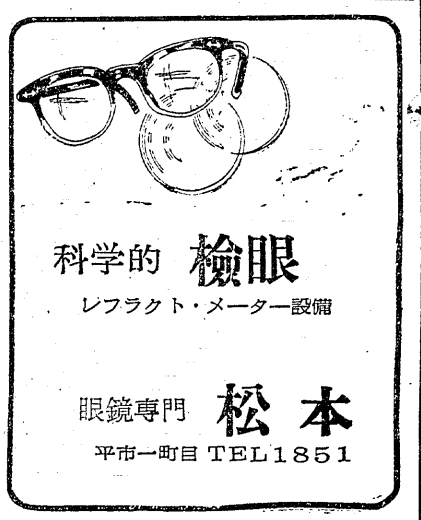
常磐寸言

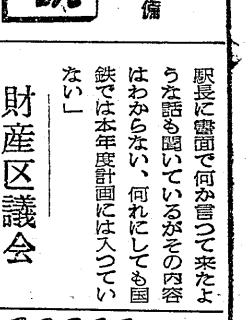
▼暴言や放言は、吉田や池田で十分過ぎるのに、関内運輸委員長も平気で放言を放つとは大物になつたもんだ。▼根が油屋だから、遂舌先がすべつてペラペラとシャベつてしまつたか、まさか国鉄にガソリンを売込む魂たんからでもあるまい。▼政治は政治、ビジネスはビジネスとちやんと割切つてやれば、放言も暴言も汚職もないはず。▼アブおんちやんの愛称の如く油を売ることと、政治とを混同しないように願いたいものである

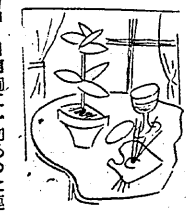
天氣予報

明日＝北よりの風強り後時々晴になり、朝のうちは小雨のふるところがある。

海上＝今晩も明日も穏やかな方ですが見通しが悪い見込みです。







時出し　出思い　代のかけ

日頃胸に一物あつた連中なので期せずして〝署長撃つべし〟と相成つた。あれや、これやと夜を徹して署長とのケンカ対策が練られた。

◇署長の非を勧告して、署長に謝罪させる。

◇三昧線は署長に弁償せしめる

◇暴行を加えた芸者に対して署長に慰謝料を支払わしめる（額は破かれた芸者の晴衣を購入する程度）

その他色々話はあつたが、すぐ〝おおり〟、左側は刑事らのツクエである、

芸者が泣き泣きかけ込んだイキサツから、昨夜の事の次第を話して、署長の非を難詰したところ。

〝君ら因縁をつけに来たのか？……話は全くデタラメだ、証拠でもあるのかね〟

とシャアシャアとした態度である、そればかりか。

〝君ら……芸者風情の尻馬に乗つて、僕をちゆう傷しようとするなんざあ、名誉キ損も甚だしい、幸い証人として署長もいることだから、現行犯でひつくくるぞ〟

と警察権をカサにきて、威かく的態度で応酬して来た、こちらは女中の証言と、同席者S県議の供述もあるので、紳士的に話合をつけてやろうと出掛けて行つた処、右のような始末である

殴られた〝チャラ徳〟署長（9）

女とは恐しさものかな

血の気の多い若い記者連中ばかりだつたのだからたまらない。

〝文句を言うな！チャラ徳野郎!!

と言うが早いか、立上りざま、署長のツメ襟に手を突込んでひつぱり、両ホホをいやと言うほど殴りつけた。

「チャラ徳」というのは署長のアザ名で、上司に物など贈つてチヤラチヤラするので、上司には受けがいいが部下には非常に評判の悪い、天型的な官僚署長で、名前が徳次郎というところから、記者クラブでは〝チャラ徳〟と呼んでいた、

さあ大変、この騒ぎに署員も総立ちとなつた、われわれは腰かけていた丸イスを振りあげて〝来るなら来てみろ〟と身構えたそのうちに刑事の一人が、乱暴するな、とお何んとか、どなりながらわれわれめがけて飛びかかつて来たところが、この時遅く、この時早く、傍らの司法主任席から大喝一声。

〝叙野君＝刑事の名＝よし給え、署長と記者諸君の語合いに余計なおせつかいをするなと耳をつんざくほどの大声に気負いまけしたか、当の刑事は勿論、署員のだれ一人も手向つて来ない、

そのうち、口の中で何かブツブツ言いながら署長が席をケツて官舎へ帰つてしまつた、気ぬけしたわれわれもイスを降ろして気を静めたが、腋に余つて殴つてはみたものの、一時はどうなることかと心配でもあつた、司法主任の一喝は正に救いの神というか、彼が刑事を制せず放任しておいたとしたら、どんな結果になつたかも知れないと、後日の語り草になつている。

（続）

東炭礦にも水増

平職安　失保の支拂停止

平職安所では次々と発覚する中小炭礦の失保不正受給問題を重視、全所員を動員して不正受給の摘発に全力を傾中、現在迄に福島炭礦を始めとして六炭礦の不正をつきとめ、支払の停止を通告したが、三十日また匆来町東炭礦＝従業員四十名＝に水増し不正のあることをつきとめ、五十名に及ぶ失保受給者の支払を停止する一方、内情の撤底的調査にのり出した。

同炭礦は四月以降三回にわたつて前後八十名を退職させており、工員の不正受給は確実であるが職員の内情がわからないので加藤所長と棚木事務官が東炭礦に出向き、詳細の究明に当つている

ハイヤー轉落

内郷、運転手重傷負う

三十一日午前一時三十分ころ、常磐市湯本吹谷地内を走つていた内郷市綴町内郷タクシー＝運転手鈴木健一（三四）＝のハイヤーがハンドルの切りあやまりから進行左側の下水＝巾四尺、高サ五尺＝に転落し、ハイヤーは前部を小破し、鈴木は胸部を打つて内郷市共立病院に担ぎ込まれたが、全治一ケ月の重傷。

オツトセイを寄附

磐城市小名浜港所属北洋漁船第三天洋丸（五五トン）船長加納屋馨一さん外十七名は、四ケ月にわたる遠洋漁業を終えて二十九日午前二時ころ無事帰港したが、日頃遠洋漁業中郷里のヨイ子らから送られて来る慰問作文の御礼にと、身長三尺余体重五貫匁のオツトセイをおみやげに持参第一小校に寄贈した、

第三天津丸は去る四月五日カムチヤツカ方面に出漁したが、このオツトセイはアツツ島附近で網にかゝつたもので、一小校では大喜び、早速同校の中庭を利用噴水池を作つて飼育することとなつた。

青色申告の講習会

内郷市青色申告者協会では九月三日午后二時から同市公民館で青色申告講習会を開く、

講師は平税務署青色申告係となつている。

ポンを運ぶ女捕る

三十日午后五時ころ内郷市宮町竹の内無職福田高子（三四）は常磐市から五〇〇入百五十本を買つての帰途、内郷市綴町七反田地内で内郷署員の職務質問にあつて発覚逃い都違反現行犯で捕まつた。

十五年求刑

矢内殺しの二被告に

好間村村議矢内光氏殺しの武藤正巳（三）、鈴木豊両被告にかゝる殺人事件公判は三十一日午后一時二十分から地裁平支部法廷で大竹裁判長係、松沢検事、真木弁護人立会で開廷、被告武藤の実父一治氏（五八）の証言についで、同二時三十分松沢検事から両被告に徴役十五年の求刑が行われた。

十九日の夜急行で平駅についたがたづねるはずの昭和の天皇陛下＝好間村荏籍＝と乗る杉山幸雄（三五）さんが見当らず、土産に持参してきたというリンゴ二カゴと白玉のダンゴの入つたボストンバツクもそのままに平市役所に泣きついて帰りの汽車賃をネタリにきたという次第。

内郷でポン狩り

一ケ所急襲一名検挙

内郷署では三十一日、午前六時を期して、かねて内偵を進めていた常磐市湯本天王崎ハツピー飲食店主佐藤シモ（三七）、同市三函無職米川武（三七）の二ケ所のポン密売所を急襲佐藤方から五〇〇入り四十五本押収する共に同宅内に五〇〇入り二十四本を所持していた天王崎無職大須賀久子（三三）を覚せい剤所持現行犯で検挙した。

役所戸籍課の窓口に現れ訳の解らぬ事ばかり辨りまくるので吏員一同「少しオカシイぞ」とばかり早々に福祉事務所え取継いだが調べてみると件のオツサン……姓は伊藤で名は長松という今年五十七才の北海道中川郡西呂寄町字芽登の特産、詳細は弁らいけれども二

天皇と称する男

自称北海道天皇と名乗る国防色のズボンに白のワイシヤツを着た五十過ぎの男が、三十日の朝早く市

銘菓　平饅

松月堂

秋の洋服と洋品の店

……買方の店……

中売投売夏物

株式会社　鈴木勘兵商店

平市1町目電1638　平和通り電732

劇場　酔田

仕出し

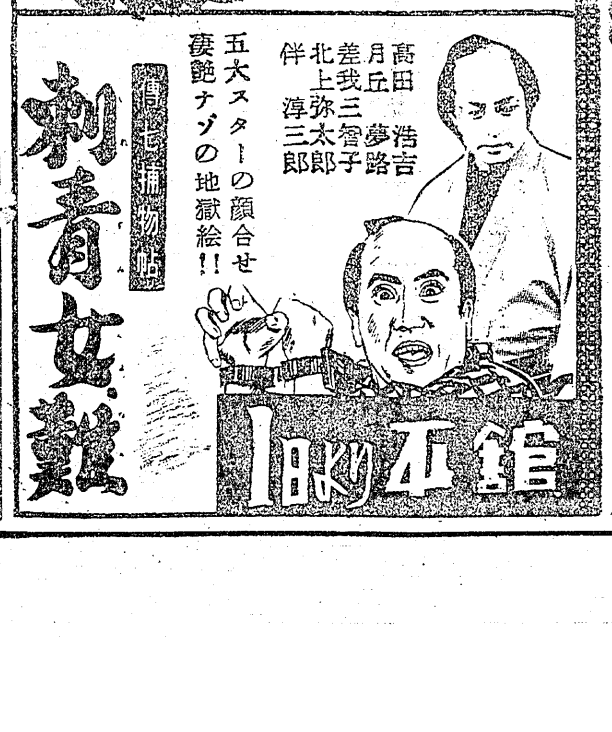
平市大町電637

あす二百十日

大荒れはない模様

今朝（三時現在）の気圧配置は全線が千島の東方から南西に延びて関東南部を経て四国及九州中部を貫き東支那海附近に達している、この全線上に三陸沖、瀬戸内海にそれぞれ低気圧があり、東乃至北方に進んでいる。これとは反対に北海道に高気圧があつて千島及日本海一帯を覆つている、このためここ二三日はぐつつきぎみの天気であるが九月四、五日頃から次第に天気は回復すると思われるが気候はすでに夏型から秋型に変つているのではつきりしない天候期に入るでしよう。

今のところから二百十日はまあ大した荒れもなく、至極穏やかな雨位で襲来された程の模様にはならないだろう、と小名浜測候所では語つている。



同時上映　短篇　間抜けの兵隊

9月1日ヨリ　聚楽館